

平成30年度 第14回政策推進会議報告

日 時 11月5日 9時30分～10時09分

場 所 4-1会議室

出席者 20人

1 平成30年度全国学力・学習状況調査結果報告について

教育次長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

- ・「 今後の取組について」で、あまっ子ステップ・アップ調査の記載があるが、いつごろ実施するのか。また、今回の調査で作成している「各学校の概況」は、どのように活用していくのか。

あまっ子ステップ・アップ調査は、小学校では12月、中学校では1月に実施する。その結果が2月ごろに返ってくるので、各学校で子どもがつまずいているところについて、例えば春休みに復習しようねと個別に指導するなどして改善に努めていく。各学校の概況については、自校と他校を比較し、自校より優れているところにどんな取組を行っているのか教えてもらうというような活用をしていただく。

- ・あまっ子ステップ・アップ調査と全国学力・学習状況調査は全く別物のような扱いになるのか。あまっ子ステップ・アップ調査は本市独自の事業であるが、どういう目的でやっていくのか。

同じような調査なので全く別物というわけではないが、あまっ子ステップ・アップ調査は全学年で継続して行うことによって、例えばある子どもが進級していき特定の学年で成績が急に上がったようなときに、なぜ上がったのかという分析ができるようになる。

- ・個々の子どもの成績を追いかけていくのがこれからやるあまっ子ステップ・アップ調査で、それも学校や保護者の方にフィードバックしていくという理解でいいか。

(市長) 教育長が欠席なので私から補足させていただく。あまっ子ステップ・アップ調査については、学校ごとに比べるというよりは、個々人のつまずきをしっかり分析するということが重要なのではないかと考えている。子どもたちの成績と先生の授業との関係についても分析して、個々の授業力の向上にも繋げていくし、子どもたちのつまずきに応じた学習支援も個別にやっていくというようなスタイルになっていくと思う。今後については、全国学力・学習状況調査は当然しっかりとやるが、やはりあまっ子ステップ・アップ調査のほうをメインにやっていかないと、これから先、全国学力・学習状況調査の平均点超えというのが結果的になかなか難しいのではないかと思う。ちなみに、中学3年生は全国学力・学習状況調査があるからあまっ子ステップ・アップ調査はやらないことになっている。小学6年生は中学校との繋がりががあるので実施する。

- (市長)「 質問紙調査」において、「授業について」の項目だけが平成29年度と平成30年度の比較になっているが誤りではないか。

誤りではない。平成25年度当時はこの項目がなかったので、昨年度との比較を掲載している。

(市長) PDCAを回していくという視点から言えば、分析についての記載がもう一息かなと思っ

ている。例えば、全体の取組として今後はアクティブ・ラーニングを進めていくという記載があるが、そのアクティブ・ラーニングの必要性がこの調査結果からどのように導き出されたのかというと、あまり繋がっていないような印象を受ける。アクティブ・ラーニングをより多く取り入れている学校のほうが点数が良いというような分析はされてないと思うがどうか。

「学力調査と質問紙調査との関係」の「1 授業改善と学力との関係」の項目で、やはりアクティブ・ラーニングを行ったほうが小学6年生も中学3年生も学力が高いというような結果が出ているので、それについては相関関係があると分析している。

(市長) 承知した。これから各学校でもそれぞれの取組を保護者の皆さんに説明したり発信したりしていくと思うが、こういう結果が出ているからこういう取組を進めていきますという分析に基づいた報告になるように、プレゼンをサポートしていただきたい。そうしないと、さっき私が誤解したようなことが保護者レベルでも起きるのではないかと思う。

・「教科に関する調査」で全体として上位層が少ないとのことであるが、これは尼崎市の上位層が私立に行く傾向があるからというような理由があるのか。

小学校については私立にあまり抜けていない。中学校については若干そういう面もあると思うが、多くて2割程度なので、大きな要因ではないと考えている。

(市長) 私立に抜ける率は西宮も同程度なので、尼崎市だけが突出して高いわけではない。あまっ子ステップ・アップ調査のほうにも関係するかもしれないが、この全国学力・学習状況調査は毎年同じ問題ではない。結果では正答率しか見えないので、たまたま非常に難しい問題があって正答できていないのか、正答が必須というような設定の問題ができていないのか、そこはわからない。まちの平均を上げるためだけに一部のエリート層を作るというのも変な話なので、大半の子どもたちが今後の伸びにつながる基礎的なところを落としてないという状態を作らないといけないのではないかと思っている。そういうところは教育委員会が今後いろいろと振興ビジョンを作ろうとされているので、自分たちの問題意識をしっかりとって取り組んでいただきたい。私に関わらせていただいた8年間で、この全国学力・学習状況調査結果報告の冊子の作りも年々改善が図られているのではないかと思う。今後はあまっ子ステップ・アップ調査もやりながら、こちらにも良い影響が及んで、両方が見やすい分析になればいいと思うので引き続き頑張っていこう。

(市長) 各学校の取組の横展開については議会からも意見をいただいているが、例えば朝の読書と昼の計算など、もう全校でやると決めているようなものはあるか。

全校一斉実施については内部で議論中である。

2 その他

ひと咲きまち咲き担当局長から、「築城400年尼崎城できまんねん(年)イベント」事業スケジュール(11月分)について説明。

ひと咲きまち咲き担当局長から、「ひと咲き まち咲き あまがさき」ロゴマークの活用について説明。

こども青少年本部事務局長から、子どもの育ち支援センター及びユース交流センターの愛称決定について説明。(以下、質疑等)

(市長)これからパンフレットや現地の看板などのサインも作り込んでいくことになる。今、お城周辺のサイン計画を検討しているが、ひと咲きプラザや各地域の生涯学習プラザあたりのサイン計画が上手く間に合っておらず、全部を統一できていない。実は阪神淡路大震災のころに尼崎市には全市的なサイン計画があったそうだが、現在は使われておらず、そのころよりも随分と高齢化が進んでいるので字も大きくないといけないなど色々な配慮すべき部分がある。これからまだ公共施設の統廃合等が進んでいくので、そういうサインのところも全庁横串で意識していかないといけないと思う。全てお揃いでなくてもいいと思っているが、情報を共有できるようにしたいので頭に入れておいていただきたい。

(市長)愛称については、女性・勤労婦人センターがトレピエとして定着しているように、この子どもの育ち支援センターやユース交流センターについてもなるべく愛称のほうを浸透させたい。子どもの育ち支援センターという名称は、少し間違うとつらい環境にある子どもたちのためのセンターなのかなという印象がつかねないので、それを避けたいと思っている。誰でもここに気軽に相談できるし、いろいろな取組を主体的にやってもらう場でもあり拠点でもあるという空気の中で、必要に応じた支援をしていくという趣旨の施設なので、愛称を定着させていけるようによろしく願いしたい。

資産統括局長から、公共施設マネジメントセミナーについて説明。(以下、質疑等)

(市長)公共施設のマネジメントは確かに今使っている方に変化をもたらすという意味では反対の声や心配の声があがるかもしれないが、基本的には非常に前向きな要素の多い取組だと思っている。これからの時代に必要な防災やバリアフリーという面について、機能的に古くて使いにくくなっている施設が非常に多いというのが現実なので、それを使いやすいしていくという意味で各局前向きに取り組んでいただきたい。今日の研修も「自分ごとで考える」というタイトルになっているのでよろしく願いしたい。

資産統括局長から、本庁舎自衛消防訓練について説明。(以下、質疑等)

(市長)宝塚で火炎瓶が投げつけられたという火災があった直後は、非常に緊張感を持って消火栓の確認をしたり防火扉の開け方や位置を確認したりという実のある訓練になっていたと思うが、やはり年々どうしても風化して緊張感に欠ける訓練になってしまいがちなので、改めてこの訓練の機会をしっかりと自分たちの点検の日にしてもらえるように各局職員にお声掛け願いたい。また、今年は市民の方をしっかりと避難誘導するということに力点があり、前回の反省を踏まえて窓口の受託業者さんとも連携してやっていくなどのチェックポイントがいくつかあるので、皆さん抜かりなく、各局それぞれのポイントをしっかりと作って取り組んでいただきたい。

以上